

第20回

全国済生会糖尿病セミナー in Kumamoto

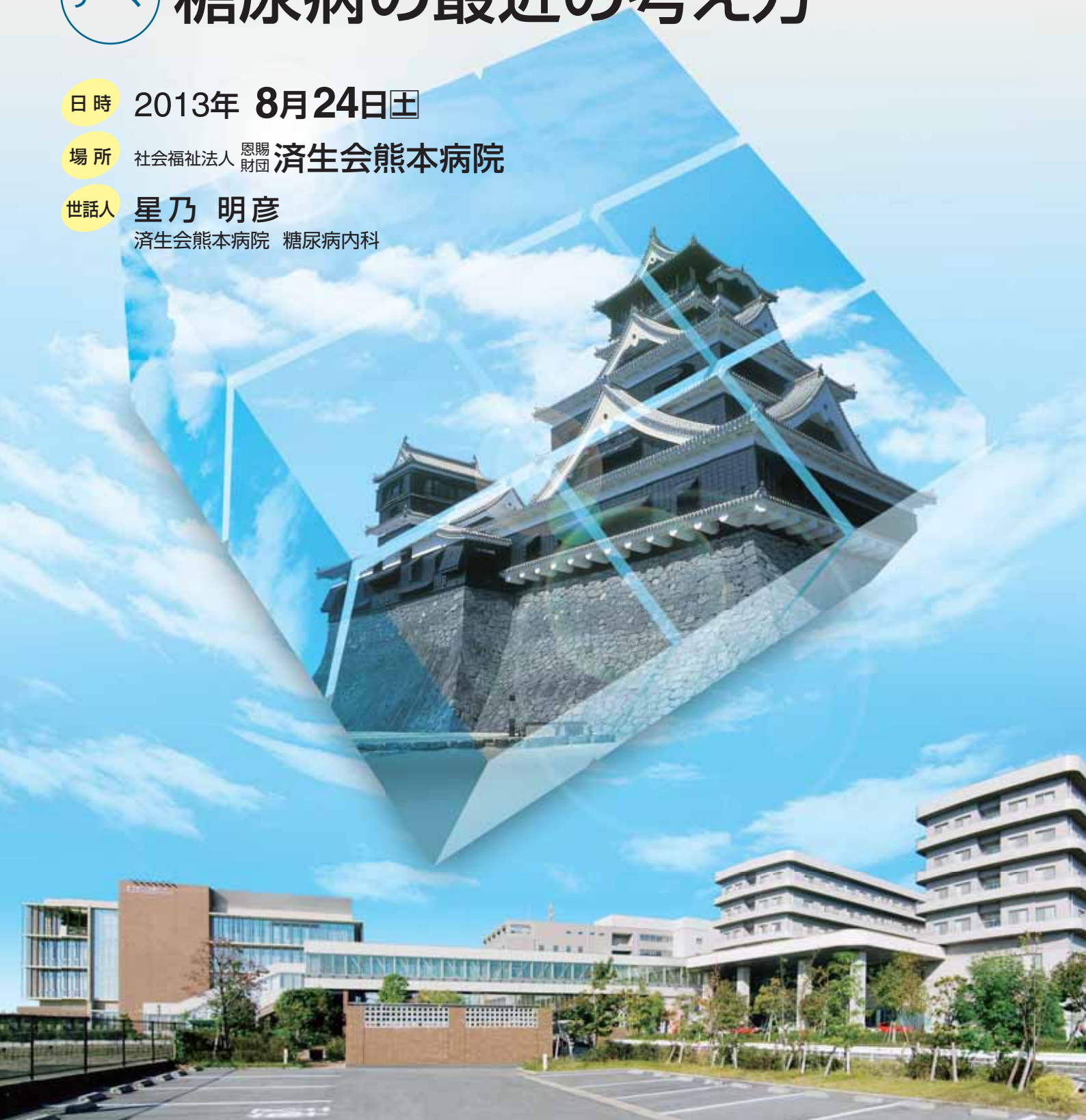
テーマ

糖尿病の最近の考え方

日時 2013年 8月24日(土)

場所 社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院

世話人 星乃 明彦
済生会熊本病院 糖尿病内科



第20回

全国済生会糖尿病セミナー in Kumamoto

テーマ 糖尿病の最近の考え方

日時 2013年 8月24日(土)

場所 社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院

世話人 星乃 明彦
済生会熊本病院 糖尿病内科

第20回全国済生会糖尿病セミナー 事務局



社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院

〒861-4193 熊本県熊本市南区近見5丁目3-1

TEL: 096-351-8478

E-mail: sdms2013@saiseikaikumamoto.jp

全国済生会糖尿病セミナー開催一覧

回	開催日	主な内容	開催地	担当病院・世話人
1	1994年(平成6年) 7月31日	糖尿病ー最近の考え方ー 糖尿病患者教育はなぜ必要か 糖尿病患者管理について	東京都	済生会中央病院 松岡 健平
2	1995年(平成7年) 7月15日	食品交換表の正しい使い方 治療困難例はなぜ出現するか 段階的糖尿病管理(SDM)の応用	東京都	済生会向島病院 北村 信一
3	1996年(平成8年) 7月27日	糖尿病の診断・最新の話 患者教育の成果を高めるコツ 糖尿病合併症の診療のありかた	静岡市	静岡済生会総合病院 石垣 健一
4	1997年(平成9年) 7月12日	患者教育について 医師向けセミナー(治療とQOL) コメディカルからのレポート	松阪市	済生会松阪総合病院 林 弘
5	1998年(平成10年) 7月19日	教育とチーム医療 妊娠と糖尿病各施設の指導體制 コメディカルスタッフ主体のP.ディスカッション	熊本市	済生会熊本病院 野上 哲史
6	1999年(平成11年) 7月17日	糖尿病の二次予防と医療経済 糖尿病診療の標準化 糖尿病療養指導士について	北上市	北上済生会病院 伊藤 隆司
7	2000年(平成12年) 7月15日	いかに教育するか チーム医療の重要性 合併症の予防および治療のために	東京都	済生会栗橋病院 大森 安恵
8	2001年(平成13年) 7月14日	治療症例 患者指導の取り組みと工夫 糖尿病合併症について(眼・足病変) クリティカルパス 療養指導士への期待	松山市	済生会松山病院 田中 昭
9	2002年(平成14年) 7月20日	エビデンス(根拠)に基づいた糖尿病診療 療養指導士 妊娠糖尿病 eSDM メイリングリスト クリニカルパス	新潟市	済生会新潟第二病院 安藤 伸朗
10	2003年(平成15年) 7月26日	21世紀の糖尿病診療 ーその現状と将来ー	福井市	福井県済生会病院 番度 行弘
11	2004年(平成16年) 7月24日	済生会糖尿病ケアブランドの確立をめざして	東京都	済生会中央病院 渥美 義仁
12	2005年(平成17年) 7月16日	糖尿病合併症の進展防止に向けて ー糖尿病合併症に対するチーム医療ー	岡山市	岡山済生会総合病院 中塔 辰明
13	2006年(平成18年) 7月22日	これからの糖尿病診療の新しい戦略 ー糖尿病診療の現状と将来への展望ー	福岡市	済生会福岡総合病院 迫 康博
14	2007年(平成19年) 7月21日	糖尿病療養指導ネットワーク ーオリジナル教材の共有をー	今治市	済生会今治第二病院 田丸 正明
15	2008年(平成20年) 7月19日	糖尿病医療連携 ー院内におけるネットワークおよび 院外における地域医療連携の推進に向けてー	東京都	済生会向島病院 北村 信一
16	2009年(平成21年) 8月29日	糖尿病ケアの充実 ー済生会ブランドのさらなる確立を目指してー	松山市	済生会松山病院 宮岡 弘明
17	2010年(平成22年) 8月28日	血管からみた糖尿病のチーム医療	横浜市	済生会横浜市東部病院 比嘉 真理子
18	2011年(平成23年) 8月27日	糖尿病医療の多様性にいかに対処すべきか? ーディベートを通じた更なる相互理解を目指してー	福井市	福井県済生会病院 番度 行弘
19	2012年(平成24年) 8月25日	糖尿病ケアチーム(DCT) ー糖尿病患者さんによりそう医療をめざしてー	和歌山市	済生会和歌山病院 江川 公浩
20	2013年(平成25年) 8月24日	糖尿病の最近の考え方	熊本市	済生会熊本病院 星乃 明彦

第20回全国済生会糖尿病セミナー 開催のご挨拶

第20回全国済生会糖尿病セミナー

世話人 **星乃 明彦** 済生会熊本病院
糖尿病内科

この度、第20回全国済生会糖尿病セミナーを2013年8月24日(土)に済生会熊本病院・外来がん治療センターにて開催させて頂くことになりました。熊本での開催は実に15年振りです。

本セミナーは「済生会病院・診療所全体で糖尿病診療に当たる医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などがそれぞれの立場での経験や研究成果についてディスカッションや情報交換を行い、糖尿病診療レベル向上に寄与すること」を目的としております。

今回、節目となる第20回目をお世話させて頂くことは誠に光栄であり、代表世話人の渥美義仁先生、顧問の松岡健平先生、大森安恵先生、北村信一先生をはじめ、世話人の諸先生に厚く御礼申し上げます。

今回は済生会全体の糖尿病診療のレベルアップ、交流の場のみならず、セミナー開催の原点に立ち帰る場にしていきたいと考えております。

そのような意味を込めまして、今回のテーマは「糖尿病の最近の考え方」と致しました。参加頂く皆様の積極的な討論により、実り多きセミナーになることを期待しております。

交通案内図



■ お車でお越しの方

● 福岡方面から

九州自動車道「熊本インターチェンジ」より、国道57号線（東バイパス）を宇土方面へ。平成大通り交差点を過ぎてから、右手に見える。（熊本インターチェンジから渋滞なしで約40分）

● 宮崎・鹿児島方面から

九州自動車道「御船インターチェンジ」より、国道445号線を熊本市方面へ約8キロ進む（途中で国道266号線と合流）。国道57号線を左折して、約1.5キロのところまで平成大通り交差点を過ぎ、右手に見える。（御船インターチェンジから渋滞なしで約20分）

● 阿蘇・大分・延岡方面から

国道57号線（東バイパス）を熊本市方面に進み、平成大通り交差点を過ぎてから、右手に見える。

■ 阿蘇くまもと空港よりお越しの方

- バス利用（交通センター経由）
リムジンバス（40分）⇒ 交通センター
⇒ バス（30分）⇒ 済生会熊本病院
- タクシー利用
タクシー（40分）⇒ 済生会熊本病院

■ JR熊本駅からお越しの方

- バス利用
（北九州予備校前バスのりばから）
都市バス（20分）⇒ 済生会熊本病院
- タクシー利用
タクシー（15分）⇒ 済生会熊本病院

■ JR平成駅からお越しの方

- タクシー利用
タクシー（10分）⇒ 済生会熊本病院

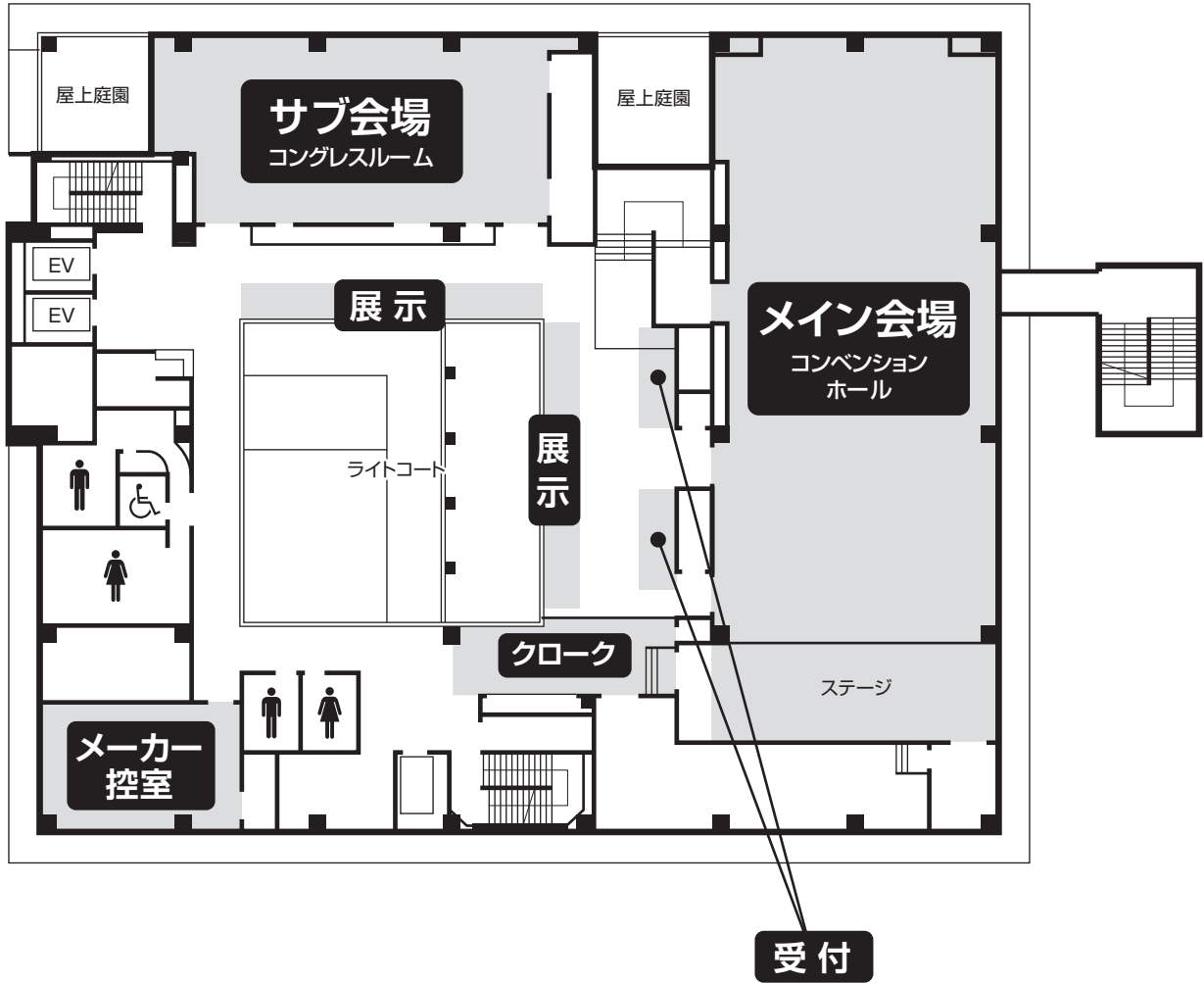
■ 熊本交通センターよりお越しの方

- バス利用（3番のりばから）
バス（30分）⇒ 済生会熊本病院
- タクシー利用
タクシー（20分）⇒ 済生会熊本病院

会場案内図

済生会熊本病院 外来がん治療センター

4F



3F

- 休憩室
- スタッフ控室

セミナー参加者の皆様へ

- 【会場】** 済生会熊本病院 外来がん治療センター4F
コンベンションホール、コンgresルーム
〒861-4193 熊本市南区近見5丁目3-1
☎096-351-8000(代表)
- 【参加受付】** 2013年(平成25年)8月24日(土)8:00～
済生会熊本病院 外来がん治療センター4F コンgresルーム、ホワイエ
- 【参加費】** セミナー参加費としてお一人様2,000円を受付にて申し受けます。
参加証(ネームカード兼領収証)をお渡し致します。会期中は必ず携帯をお願い致します。
- 【抄録集】** 事前参加登録を頂いた方には事前に郵送しております。
- 【禁煙】** 当院は敷地内禁煙です。愛煙家の方はご協力をよろしくお願い致します。
- 【昼食】** 12:00よりランチョンセミナーを開催致します。コンベンションホール入口にてお弁当とお茶をお渡し致しますので、どうぞご利用ください。
- 【質疑・討論について】**
質疑・討論者は、あらかじめ会場内の質問者用マイクの近くで待機をお願い致します。
質疑・討論者は、施設名、所属、氏名を述べた後、簡潔に発言をお願い致します。
- 【懇親会】** 第20回全国済生会糖尿病セミナー参加者の懇親会はございません。ご了承ください。
- 【世話人会】** 世話人会を以下の通り開催致します。世話人の先生方はよろしくお願い致します。
日時：2013年(平成25年)8月23日(金)18:00～
場所：熊本ホテルキャッスル 熊本市中央区城東町4-2
☎096-326-3311
- 【ドリンクサービス】**
コンベンションホール入口付近にドリンクサービスコーナーを設置致します。ご自由にご利用ください。
- 【展示コーナー】**
外来がん治療センター4F ホワイエに企業展示ブースを出展致します。是非ご覧ください。

【休憩コーナー】

会 場：済生会熊本病院 外来がん治療センター 3F 301 会議室
利用時間：2013年8月24日（土）9:00～16:00

【CDEJ(日本糖尿病療養指導士)の研修単位について】

CDEJ の認定更新のための単位取得(2単位)を希望される方は、セミナー当日に参加証を発行致します。受付の際に「認定番号」が必要となります。後日では証明ができません。ご自身の認定番号を忘れずにご持参ください。

演者の皆様へ

【受 付】 「発表者受付」にて受付をお願い致します。

【一般口演】 一般口演は発表5分、質疑応答2分と致します。
発表時間は各セッションの司会、座長の指示に従い、時間厳守をお願い致します。
次演者は5分前までに「次演者席」にご着席をお願い致します。
発表会場はコンベンションホール、コンgresルールの2会場ありますので、お間違えの無いようご注意願います。

【プレゼンテーションデータ】

発表はすべて Microsoft 社の PowerPoint を用いたプレゼンテーションで行います。発表用 PC の OS は Windows7、ソフトウェアは PowerPoint2010 です。
一般口演演者はプレゼンテーションデータを USB フラッシュメモリーまたは CD-R に保存して当日持参し、ご自身のセッション開始の30分前までにデータ受付で動作確認をお願い致します。
Macintosh の場合は PC 持ち込みとなります。AC アダプタと外部出力用の RGB コネクタを必ず持参して頂くようお願い致します。

座長の皆様へ

【受 付】 「座長受付」にて受付をお願い致します。

【議事進行】 ご担当頂くセッションの開始5分前までに「座長席」にご着席をお願い致します。
議事進行は時間厳守でお願い致します。
発表会場はコンベンションホール、コンgresルールの2会場ありますので、お間違えの無いようご注意をお願い致します。

コンベンションホール

コンgresルーム

8:00	8:00～ 受付開始	
9:00	8:45～ 開会挨拶 院長：副島 秀久	
10:00	9:00～10:00 基調講演 糖尿病の新しい治療戦略 渥美 義仁 先生 永寿総合病院糖尿病臨床研究センター長、東京都済生会中央病院顧問	
11:00	10:10～11:00 一般口演 V-I 療養指導の取り組み-1 [7題] 座長：田丸 正明 先生	10:10～10:55 一般口演 G-I インクレチン関連-1 [6題] 座長：番度 行弘 先生
11:00	11:00～11:45 一般口演 V-II 療養指導の取り組み-2 [6題] 座長：石井 達哉 先生	11:00～11:45 一般口演 G-II インクレチン関連-2 [6題] 座長：中塔 辰明 先生
12:00	12:00～12:50 ランチョンセミナー 動脈硬化症抑制を考慮した糖尿病治療戦略 井口 登與志 先生 九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点 教授 共催：MSD 株式会社	
13:00	12:50～13:00 次回世話人挨拶 安田 浩一郎 先生(済生会野江病院)	
14:00	13:10～14:00 一般口演 V-III インスリン自己注射に関わる療養指導 [7題] 座長：比嘉 真理子 先生	13:10～14:00 一般口演 G-III 新たな取り組み [7題] 座長：英 肇 先生
15:00	14:10～16:00 シンポジウム 糖尿病の最近の考え方 第Ⅰ部 東日本大震災の経験から 座長：大森 安恵 先生 シンポジスト：仲野 淳子 先生、菊池 美智子 先生 第Ⅱ部 新しい取り組み 座長：宮岡 弘明 先生、島田 朗 先生 シンポジスト：奥山 晃輔 先生、宮岡 弘明 先生 安田 浩一郎 先生、島田 朗 先生	
16:00	16:00～16:05 閉会挨拶	

プログラム

8:00～ 受付開始

8:45～ 開会挨拶 副島 秀久(済生会熊本病院 院長)

9:00～10:00 基調講演

会場：コンベンションホール

座長：迫 康博(済生会福岡総合病院)

[糖尿病の新しい治療戦略]

渥美 義仁 永寿総合病院糖尿病臨床研究センター長、
東京都済生会中央病院顧問

10:10～11:00 一般口演 V-I

会場：コンベンションホール

[療養指導の取り組み-1]

座長：田丸 正明(済生会今治第二病院)

V-I-1 当院における糖尿病教室(1週間コース)の現状
～過去5年を比較して～

○籾 陽子(その他(栄養士)¹⁾、中村 弘子¹⁾、上嶋 稔子¹⁾
済生会大牟田病院 栄養科

V-I-2 血糖コントロール良好な糖尿病患者のセルフケア行動の実態調査

○毛利 裕香(看護師)、後藤 友里江、加藤 由夏、山本 淳子
福井県済生会病院 8B 病棟

V-I-3 血糖コントロール不良の看護学校教諭との関わり
～肩書きが糖尿病治療の妨げになっていた症例への対応～

○郷田 佳奈(看護師)¹⁾、兵頭 千恵¹⁾、徳野 みどり¹⁾、梅岡 二美²⁾、宮岡 弘明²⁾
1) 済生会松山病院 看護部、2) 同 甲状腺・糖尿病センター

V-I-4 身体機能が安静時・食後・運動後の血糖値に及ぼす影響
～筋力及び歩行速度に着目して～

○須崎 裕一(理学療法士)¹⁾³⁾、小野内 雄¹⁾、橘 竜太郎¹⁾、松岡 健¹⁾、上嶋 稔子²⁾、
山下 祐子³⁾
1) 済生会大牟田病院 リハビリテーション科、2) 同 栄養部、3) 同 看護部

V-I-5 糖尿病の運動療法の効果検討
ー 30分歩行の急性血糖降下作用と筋肉量との関連についてー
○山根 章(理学療法士)
大阪府済生会吹田病院 リハビリテーション科

V-I-6 食後に行うステップ運動の急性効果
～血糖値および血中インスリン値による検証～
○小野内 雄(理学療法士)¹⁾³⁾、須崎 裕一¹⁾、橘 竜太郎¹⁾、松岡 健¹⁾、上嶋 稔子³⁾、
山下 祐子²⁾
1) 済生会大牟田病院 リハビリテーション科、2) 同 看護部、3) 同 栄養部

V-I-7 糖尿病教育入院患者に対する糖尿病チームとしての理学療法士の関わり
○知花 夕菜(理学療法士)¹⁾、溝口 雅之¹⁾、青野 達¹⁾、迫 康博²⁾、市野 功²⁾、
平田 英一²⁾
1) 済生会福岡総合病院 リハビリテーション部、2) 同 糖尿病内分泌代謝内科

11:00～11:45 一般口演 **V-II**

会場：コンベンションホール

[療養指導の取り組み-2]

座長：石井 達哉(済生会向島病院)

V-II-1 ABI値が正常を示し、超音波検査にて重症虚血肢であることが判明した
糖尿病患者の一例
○正岡 有加(臨床検査技師)¹⁾、青野 拓也¹⁾、曾我部 愛¹⁾、藤田 佳寿美¹⁾、
伊丹 眞二¹⁾、金子 由梨²⁾、鳥巢 真幹²⁾、金子 伸吾³⁾、白形 陽生⁴⁾
1) 済生会西条病院 臨床検査科、2) 同 内科、3) 同 循環器科、4) 同 整形外科

V-II-2 超音波パルスドプラ法による糖尿病患者の下肢動脈病変評価についての検討
ー加速血流速度とカテーテル圧較差・狭窄率の対比ー
○青野 拓也(臨床検査技師)¹⁾、正岡 有加¹⁾、曾我部 愛¹⁾、藤田 佳寿美¹⁾、
伊丹 眞二¹⁾、金子 由梨²⁾、鳥巢 真幹²⁾、金子 伸吾³⁾
1) 済生会西条病院 臨床検査科、2) 同 内科、3) 同 循環器科

V-II-3 当院における尿中微量アルブミンの測定状況の把握と対応
○杉山 祝子(臨床検査技師)¹⁾、武田 昌也²⁾、北村 卓也²⁾、中塔 辰明²⁾
1) 岡山済生会総合病院 糖尿病センター メディカルアシスタント(内科)、
2) 同 糖尿病センター 内科

V-II-4 糖尿病透析予防管理指導の実施状況と今後の課題
○土屋 文美(管理栄養士)¹⁾、藤谷 朝実¹⁾、比嘉 眞理子²⁾
1) 済生会横浜市東部病院 栄養部、2) 同 糖尿病・内分泌内科

V-II-5 病院食体験を取り入れた糖尿病透析予防教室を開催して

○吉田 明美(看護師)¹⁾、藤本 幸余²⁾、尾田 香²⁾、北田 裕陸³⁾

1) 済生会中和病院 看護部、2) 同 栄養科、3) 同 内科

V-II-6 当院の糖尿病透析予防外来の現状と課題

○林 麻美(看護師)、若林 こち、楢原 直美

済生会横浜市東部病院

12:00～12:50 ランチョンセミナー

会場：コンベンションホール

座長：星乃 明彦(済生会熊本病院)

[動脈硬化症抑制を考慮した糖尿病治療戦略]

井口 登與志 九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点 教授

共催：MSD 株式会社

12:50～13:00 次回世話人挨拶 次回世話人 安田 浩一朗(済生会野江病院)

13:10～14:00 一般口演 V-III

会場：コンベンションホール

[インスリン自己注射に関わる療養指導]

座長：比嘉 真理子(済生会横浜市東部病院)

V-III-1 頻繁に自己注射をしている糖尿病患者の注射部位選択時の状況

○井上 愛衣(看護師)¹⁾、田口 佳奈¹⁾、笠原 歩美¹⁾、佐藤 真理子²⁾

1) 岡山済生会総合病院 糖尿病センター、2) 同 看護外来室

V-III-2 インスリン皮下硬結患者に対する注射部位ローテーション指導効果の検討

○山下 由貴(看護師)、岩村 直子、中村 いずみ、大坂間 ひろみ、星乃 明彦、
松尾 靖人

社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院

V-III-3 済生会松山病院におけるインスリン自己注射手技チェックの現状 ～優先される内容と対象者の検討～

○徳野 みどり(看護師)¹⁾、兵頭 千恵¹⁾、川本 智香子¹⁾、上野 美佐¹⁾、
渡辺 留美子¹⁾、毛利 弓子¹⁾、郷田 佳奈¹⁾、松本 早苗¹⁾、宮岡 弘明²⁾

1) 済生会松山病院 看護部、2) 同 甲状腺・糖尿病センター

基調講演

[糖尿病の新しい治療戦略]

渥美 義仁

永寿総合病院糖尿病臨床研究センター長
東京都済生会中央病院顧問

ランチョンセミナー

[動脈硬化症抑制を考慮した糖尿病治療戦略]

井口 登興志

九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点教授



糖尿病の新しい治療戦略

渥美 義仁

永寿総合病院糖尿病臨床研究センター長
東京都済生会中央病院顧問

糖尿病の患者数は増加を続け、その神経障害・網膜症・腎症ならびに大血管合併症の影響は増大している。また、生活習慣・環境の変化と多様化、高齢化などにより、糖尿病治療の目標も多様化している。一方、経口血糖降下薬や注射薬の種類は増え治療の選択肢は広がっている。しかし、食事療法、運動療法などの重要性は変わっていない。

- **食事療法**：2013年、日本糖尿病学会は食事療法の見解を新たにし、炭水化物の摂取割合を50-60%と広げ従来よりも低率まで指示可能とした。これに合わせて、食品交換表が本年秋に改訂される。炭水化物量も記載されるので、炭水化物による食後高血糖に一定対応できるようになる。患者に応じた食事療法としての対応が求められる。
- **運動療法**：わが国の糖尿病臨床現場での運動療法の実施状況は、食事療法に比して低調であるが、患者の指導への期待は大きい。患者のライフスタイルや運動の嗜好を聴いて、運動の種類や強さや時間やジムの利用などについて指導する。歩数計や活動量計を応用した目標管理や動機づけ、調剤薬局との連携などの試みについて紹介する。
- **薬物療法**：経口血糖降下薬は6種類となっているが、明年には7種類となる予定である。その選択に当たっては、患者の罹病年数や合併症、インスリン分泌能、インスリン抵抗性、高血糖や糖毒性の程度、肥満、低血糖リスク、服用回数やコストなどを考慮する。しかし、単剤治療で血糖コントロールが十分改善せず、多種類の併用となる例も少なくない。インスリンとGLP1受容体作動薬の併用も可能になる中で、薬剤選択の精度を上げるには頻回の血糖自己測定(SMBG)や持続血糖モニター(CGM)も必要となっている。
- **“e-SMBG”** SMBGに関しては、済生会病院の中で開発されたSMBG 2Days、2Days view と、2DaysのIT版でスマートホン利用の“スマート e-SMBG”を主に紹介する。
- **合併症など** 近年、糖尿病の合併症対策として診療報酬で認められたのは、“足病変の重症化予防”と“透析予防チームによる透析予防指導”である。妊娠糖尿病に対するSMBGの環境も改善している。これらを効率よく活用することが求められている。

一般口演

V-I-1

当院における糖尿病教室(1週間コース)の現状 ～過去5年を比較して～

○ 轟 陽子(その他(栄養士))¹⁾、中村 弘子¹⁾、上嶋 稔子¹⁾

済生会大牟田病院 栄養科

【目的】 当院では、糖尿病患者対象に教育入院の1つとして、糖尿病教室(1週間)が30年以上前から開催されている。その歴史の中で、当初から栄養部もメンバーの一員として関わり、内容について見直し改善を行って来ているが、ここ最近流れがマンネリ化してきた事や、実施状況にも変化が出て来たので、報告する。

【方法】 平成20～24年度(過去5年間)の糖尿病教室実施状況を調べて、この経過の中での問題点や検討、改善した事について検索

【結果】 開催回数は年間10～12回/1年とあまり変化はなかったが、参加者数は、毎年80名前後に対し、24年度は半数に減っていた。参加者平均年齢は60歳前後だったのが、24年度は67.4歳と上昇。出席率は80～90%と大きく変化はなかった。

開催側は、プラス面としてH24年11月に初めての「済生会大牟田病院 糖尿病の集い」を開催、教室のマンネリ化を見直す目的で他施設の教室見学、毎月のDM委員会での協議や症例検討、LCDE有資格者の増加など。マイナス面では、「糖尿病とともに」(オリジナルテキスト)が22年より在庫がなくなり資料がマチマチに、糖尿病専門医(常勤)が不在、職員向けの勉強会が減り職員への啓蒙の低下などがあげられる。

【まとめ】 毎月対象者がいる場合は、少数でも開催している教室ではあるが、定着している反面参加数は減少している。

栄養部での反省と課題としては、以前は体験型の食品計量や調理実習を行っていたが、今は講義型のみで行っているので内容の見直しなど必要。担当スタッフとしては、教室最後に患者とスタッフで昼食を交えての反省会も今はなくなり、お互いのコミュニケーションが取れなくなり、現状が把握できなくなっている。

25年度は、常勤ドクターの検討も上がっているのので、スタッフとしては、教室に参加して少しでも満足して頂ける様な糖尿病教室の企画運営、その実績が口コミでも広がり患者増に繋がればと考える。

また、多方面では広がっている地域連携を巻き込んだシステム、紹介患者の教室参加や近辺の施設スタッフとの勉強会などを開催して、当院のこの教室がアピール出来ればと今後の課題としたい。

シンポジウム

[糖尿病の最近の考え方]

第 I 部 東日本大震災の経験から

座長：大森 安恵（海老名総合病院）

S-I-1 済生会福島総合病院で東日本大震災直後から翌年までに経験した、
震災の影響を受けたと思われる糖尿病症例についての検討

仲野 淳子 済生会福島総合病院

S-I-2 あの日、あの時を振り返る ～東日本大震災の経験を活かすために～

菊池 美智子 済生会福島総合病院

第 II 部 新しい取り組み

座長：宮岡 弘明（済生会松山病院）

島田 朗（済生会中央病院）

S-II-1 糖尿病診療の質向上と地域連携に向けた院内体制整備とその成果
センター化による人材活用と疾病管理手法の実践

奥山 晃輔 済生会滋賀県病院

S-II-2 医師事務作業補助者による糖尿病外来診療のサポート

宮岡 弘明 済生会松山病院

S-II-3 糖尿病透析予防指導の現状〈全国済生会へのアンケート結果より〉

安田 浩一郎 済生会野江病院

S-II-4 インスリンの最近の考え方

島田 朗 済生会中央病院

S-I-1

済生会福島総合病院で東日本大震災直後から 翌年までに経験した、震災の影響を受けたと思われる 糖尿病症例についての検討

○仲野 淳子(医師)、本間 美優樹

済生会福島総合病院 内科

東日本大震災から2年が過ぎたが福島県は地域の放射能汚染の問題が現存しており、震災はまだ過去の話になっていない。当院のある福島市は震災の直接的被害は幸い大きくなく、通院中であった糖尿病患者さんの中では、命にかかわったり、必要な薬物を手に入れられないなどの大事には至った方はいなかった。震災の直後は津波から避難され、薬を持たずに避難所にたどり着いた福島県浜通り地方の糖尿病患者さんをたくさん拝見した。薬剤名もわからずデータ不明の患者さんに苦慮して薬剤を選択した。浜通りの精神科病院から救出されたが原疾患も不明のまま高血糖昏睡で一晩で亡くなられた方もいた。震災から数か月の間は何故か元々福島市在住の方でも例年より糖尿病昏睡で搬送される方が多かった。糖尿病外来における震災がらみの患者さんが一段落したと思われたH24年初めからは、震災そのものの被害は大きくなかったがその後の放射能汚染のために避難を余儀なくされた地域の方に、著しい高血糖で初めて糖尿病と診断され入院を必要とする方が目立つようになった。これら震災の影響を受けたと思われる超急性期から亜急性期の症例の治療経験について振り返り、報告する。

S-I-2

あの日、あの時を振り返る ～東日本大震災の経験を活かすために～

○菊地 美智子(看護師)¹⁾、伊藤 誠¹⁾、袖山 ちひろ²⁾、上野 康子³⁾、今野 久美¹⁾、
高橋 幸子²⁾、石川 みさ子¹⁾、菅野 早紀¹⁾、仲野 淳子⁴⁾、武田 由里子¹⁾

1) 済生会福島総合病院 看護部、2) 同 給食、3) 同 薬局、4) 同 内科

【はじめに】東日本大震災において、私たちはさまざまな経験をした。その経験は時間の経過とともに薄れてきているような気がする。いつか起こるかもしれない災害に備えるために、私たちの経験を活かしていくために、あの日、あの時に起きたことを振り返りたい。

【震災発生後の出来事】震災による建物の損傷は少なかったものの水の供給が絶たれたため、血液透析を行っている当院にとって日々の水の確保が大変だった。水不足により給食はメニューの変更や食器数の変更をしたが、食材は援助物資にて賄うことでカロリー保持は可能であった。配膳は職員総出で手渡しリレーにて行った。津波と原発事故発生に伴い、沿岸部からの避難者の対応に追われ、服薬に関する情報を持たない患者さんの対応に苦慮する日々が続いた。各スタッフは、ガソリンや自分たちの食糧確保が困難で、家族を案じつつも病院に泊らざるを得ない状況も発生していた。

【震災後に実施されたこと】病院から勤務時間外に発生した地震災害に対する職員行動マニュアルが翌年 1 月に配布された。公共交通機関を利用して通勤した職員に対する手当が支給された。また、調剤においては錠剤を分割する際に刻印が読み取りやすいように分割することを調剤マニュアルに取り入れた。製薬メーカーからはインスリン製剤の写真入りの一覧が提供された。給食では非常食の備蓄を増やし、配膳効率を考えてボックスタイプの非常食も備蓄している。

【最後に】私たち医療従事者は、災害時に何が起きるのかということ予測しておかなければ対応は難しい。そのためには多くの皆様に助けていただいたお礼に代えて経験した者が何が起きたのかを伝えていかなければならないと思う。しかし、医療従事者であると同時に被災者であるということについて、どのように折り合いをつけるのかという問題も発生する。平常時に病院として個人としての問題点を予測した上で十分に検討し、非常時に備えることが必要だと考えている。

済生会糖尿病研究会会則

第一条 名称

この会は「済生会糖尿病研究会(以下、本会)」と称する。

第二条 目的

本会は、済生会病院・診療所全体で糖尿病診療に当たる医師、看護師、薬剤師、検査技師などがそれぞれの立場での経験や研究成果についてディスカッションや情報交換を行い、糖尿病診療レベル向上に寄与することを目的とする。

第三条 事業

本会は、第二条の目的を遂行するために、以下の事業を行う。
糖尿病セミナーの開催。糖尿病セミナーは年1回開催とする。
開催地および日時は世話人会で決定する。

第四条 会員

第二条の本会の目的に賛同し、その事業に関心を持って、糖尿病関連の医療に従事する医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、理学療養士などを会員とする。

第五条 役員

- 1) 本会の運営に当たる役員をおく。
 - ① 代表世話人
 - ② 世話人
 - ③ 顧問
- 2) 前項1)の役員より世話人を構成する。
- 3) 前項1)の役員の中から糖尿病セミナーの当番世話人を選出する。

第六条 会議

世話人会は年1回糖尿病セミナーの時に開催する。

第七条 会費

会費は年2,000円とし、原則として糖尿病セミナー参加時に徴収する。

第八条 事務局

本会事務局は下記におく。

東京済生会 糖尿病臨床研究センター

〒108-0073 東京都港区三田1-4-17

TEL : 03-3451-8211 / FAX : 03-5444-4360

2013年(平成25年)8月1日現在

済生会糖尿病研究会 役員名簿

代表世話人

渥美 義仁	東京都	永寿総合病院
-------	-----	--------

顧問

松岡 健平	東京都	済生会渋谷診療所
大森 安恵	神奈川県	海老名総合病院糖尿病センター
北村 信一	東京都	済生会向島病院

世話人

安藤 伸朗	新潟県	済生会新潟第二病院
石井 達哉	東京都	済生会向島病院
和泉 元衛	長崎県	済生会長崎病院
迫 康博	福岡県	済生会福岡総合病院
島田 朗	東京都	済生会中央病院
田丸 正明	愛媛県	済生会今治第二病院
中塔 辰明	岡山県	岡山済生会総合病院
西村 治男	大阪府	済生会中津病院
英 肇	和歌山県	済生会和歌山病院
番度 行弘	福井県	福井県済生会病院
比嘉真理子	神奈川県	済生会横浜市東部病院
星乃 明彦	熊本県	済生会熊本病院
宮岡 弘明	愛媛県	済生会松山病院
安田浩一郎	大阪府	済生会野江病院

※世話人は50音順に掲載

協賛企業

「第20回全国済生会糖尿病セミナー in Kumamoto」の開催にあたり、以下の企業様よりご協賛を頂きました。ここに銘記し、その厚情に深謝致します。

第20回全国済生会糖尿病セミナー

世話人 星乃 明彦 社会福祉法人 済生会熊本病院
糖尿病内科 医長

ランチョンセミナー

MSD 株式会社

機器展示

サノフィ株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
テルモ株式会社
アボット ジャパン株式会社
大塚食品株式会社
日本ベクトン ディッキンソン株式会社
日本イーライリリー株式会社

広告掲載

武田薬品工業株式会社
ノバルティスファーマ株式会社
田辺三菱製薬株式会社
第一三共株式会社
サノフィ株式会社
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
バイエル薬品株式会社
アステラス製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
キッセイ薬品工業株式会社
シオノギ製薬株式会社
ファイザー製薬株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
大塚製薬株式会社
株式会社ツムラ
小野薬品工業株式会社
アストラゼネカ株式会社

第20回全国済生会糖尿病セミナー

世話人：星乃 明彦

事務局：社会福祉法人 済生会熊本病院
担当：尾上 正樹、田川 貴浩
〒861-4193 熊本県熊本市南区近見5丁目3-1
TEL：096-351-8478
E-mail：sdms2013@saiseikaikumamoto.jp

出版： **ホープ印刷株式会社**

〒861-8007 熊本市北区龍田弓削1丁目4番12号
TEL：096-338-0500 FAX：096-386-3001

第20回全国済生会糖尿病セミナー 事務局



社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院

〒861-4193 熊本県熊本市南区近見5丁目3-1

TEL: 096-351-8478

E-mail: sdms2013@saiseikaikumamoto.jp